

三年生 国語 学習プリント

三年 組 名前

はじめ



4 状況の中で

- 詩『挨拶―原爆の写真によせて』石垣りん 教科書P 102
- 小説『故郷』 魯迅／竹内好 訳 教科書P 106
- 論説『新聞の社説を比較して読もう』 教科書P 124

状況を捉え、人の生きる姿や社会について考えを深める

挨拶―原爆の写真によせて 石垣りん

【学習の目標】

- ◎ 比喩や象徴的な表現に着目し、作者のものの見方や考え方を捉える。
- ◎ 詩に表現されている内容と、現代社会の状況を重ね合わせながら考えを深める。

1 本文にある次の名詞の意味を国語辞書で調べよう。

■ りつぜん

Empty rectangular box for the definition of 'りつぜん'.

■ 油断

Empty rectangular box for the definition of '油断'.

2 この詩には、「顔」という言葉が何回も出てきます。それぞれ、どのような人の「顔」を表現しているのか、次の文の空欄（ ）を埋めながら確認しましょう。

(1) 第一連の「顔」は、きつと被爆された方を撮った（ ）に写っていた人の「顔」。

(2) 第三連の「顔」は、「友よ」と呼びかけてはいるが、この詩を読んでいる今現在の（ ）の「顔」。

(3) 第三連に「朝の顔」とあるが、なぜ、朝なのかというと、きっとそれは、()
(だからだ。)

(4) 第四連の「顔」は第() (連の「顔」を指している。

3 第二連は、一文(一行)のみで、一つの連となっています。このことから、考えられることを次の四角に書きましょう。

4 第七連について、理解を深めるために(1)(2)に挑戦しましょう。

(1) 「一九四五年八月六日の朝」とは、何の日のことを指しますか。この詩に書かれている言葉を使って、次の四角に書きましょう。

(2) 「油断していた」とありますが、このことから「油断してはいけない」というメッセージも読み取れます。その場合、なぜ油断してはいけないのか、その理由を詩の表現に求めた時、答えとなる表現を詩の中から、「いるから」につながるように書き抜きましょう。

いるから。

5 作者は、この詩の中で、どのようなことを考え、伝えようとしたのだと思いますか。現代社会の状況と詩の内容を重ね合わせながら、あなたの考えを、ノートに二百字程度で書きまとめてみましょう。